

## W15b ASTRO-G/VSOP-2 計画の各種検討の現状

村田泰宏、齋藤宏文、坪井昌人、土居明広、望月奈々子、紀基樹、紀伊恒男、吉川真、竹内央、朝木義晴、小松敬治、樋口健、橋本樹明、坂井真一郎、岸本直子、太刀川純孝、浅田圭一、川原康介、平林久(JAXA)、井上允、小林秀行、川口則幸、萩原喜昭、河野祐介、氏原秀樹、永井洋、梅本智文、武士侯健(国立天文台) 亀野誠二、面高俊宏、西尾正則、今井裕(鹿児島大)、小川英夫、木村公洋、阿部安宏(大阪府大)、春日隆(法政大学)、藤沢健太、輪島清昭(山口大)、他 ASTRO-G チーム

ASTRO-G 計画は、2007 年度から、衛星の基本設計を開始した。(本年会 坪井講演参照) 約 2 年間の基本設計では、機器選定、I/F 設計などの確認を行う。衛星構体は EFM 方式で製作するために、構体の I/F レベルはフライトモデルレベルまで決めておかなければならない。そのために構体のほか、9 m の高精度展開アンテナ、Ka 帯高利得アンテナ、LNA の冷却系などの設計レビューがすでに始まっている。I/F 調整はほぼ終了し、その条件をもとに、熱数学モデル、構造数学モデルによる解析が行われている。基本設計は今年度中に終了し、その設計確認会を 2009 年の 3 月に行う予定である。さらに衛星開発と平行して地上システムおよび国際協力の議論も始まっている。

衛星開発については、1 軌道および太陽の方向による熱解析の結果が得られ、温度変化による衛星全体の歪みの解析が進み、実際の観測が可能な条件が得られている。また、打ち上げ環境と衛星の耐性検討、耐放射線の検討なども進んでおり、それらの解析結果と天体観測への影響についても報告する。国際協力については、2008 年春季年会後に、5 月にボン(ドイツ)のある MaxPlanck 研究所において VSOP-2 サイエンスワークショップを開催し、欧州のグループとスペース VLBI で行うべきサイエンスについての議論を行った。また、VSOP-2 の科学運用を議論する VSOP-2 International Science Council (VISC-2) を立ち上げた。本講演では、2008 年春季年会から現在までの、衛星の機器開発の状況や、国際協力の動きの状況についてポスター報告を行う。